

校友会 経済人記

校友会組織には、経済人の集まりが4団体あります。それぞれの地域で特色を活かし、工夫を重ね、活動している姿をご紹介します。

質問

- 1 発足の経緯
- 2 会員企業の紹介
- 3 これまでの活動
- 4 今後の展望

1 経済人クラブ



会長
永尾 俊一
(ながおとしかず)
昭61学法
法律学科卒業

白ハト食品工業株式会社 代表取締役社長

1 相互の親睦と啓発を図り、経済・産業界で活躍する校友の交流を目的に1963年11月に設立。同年11月26日に大阪コクサイホテルにて、当時の理事長・学長にもご出席いただき、「第1回例会」を開催。現在は、講演会・交流会を主とした年3回の「例会」、見学会などの「特別例会」を年1回、茨木カンツリー倶楽部で「ゴルフコンペ」を年2回開催。会員からの紹介やHPからの問い合わせも多く、年々、新会員が増加。40歳未満の「若手会」も活発です。

2 会員は約150名(女性会員は約1割)、中小企業経営者や経営幹部・大企業管理職・士業・個人事業主など多業種。また、名誉会長に芝井敬司(理事長)、名誉副会長に前田裕(学長)、名誉顧問に池内啓三(前理事長・現相談役・寺内俊太郎(前校友会会長)、楠見晴重(元学長)、顧

間に田中義信(校友会会長)、参与に森茂実(校友会事務局長) 各氏を迎え、ご指導いただいています。

2009年に若手化に向け「若手会」を発足、現在は約60名。特に入会資格を定めず、独立・起業や、企業で活躍をめざすアクティブな若手が所属。2018年より株式会社関大バンセに事務委託、サポートをいただいています。

3 2013年11月26日「第200回例会」は創立50周年記念行事として、約250名が出席。読売TV「情報ライブミヤネ屋」やフジTV「Mr.サンデー」で活躍の宮根誠司氏に記念講演を依頼。「第202回例会」では、浅田真央選手のコーチで自らも五輪出場経験のある佐藤信夫氏にご登壇。以下、「第210回例会」野田順弘(株式会社オービック代表取締役会長)、「第214回例会」中谷貴之(船井総研ホールディングス代表取締役社長)、「第221回例会」西谷浩一(大阪桐蔭高等学校硬式野球部監督) 各氏など、各界OBに依頼。校友でボクシング世界チャンピオンの寺地拳四朗選手には、2017年世界王座獲得直後にご招待し、お祝いしました。昨年度はコロナ禍のためWeb例会を開催、遠方の会員にも参加いただきました。

「特別例会」では寺内俊太郎氏経営の大阪冶金興業株式会社や、卵パック製造で国内

最大シェアの株式会社栗原製作所、店舗だけでなく冷凍食品販売が好調な大阪王将など、会員企業の工場見学会や酒蔵コンサート・リバークルーズなどを企画。2016年には、白ハトグループが茨城県行方市にオープンした農業テーマパーク「なめがたファーマーズヴィレッジ」の体験型見学ツアーを実施。東京経済人倶楽部メンバーも参加され、交流を図りました。2019年「第220回特別例会」は、創立55周年を記念してベトナム・ハノイを訪問。企業視察や世界遺産観光、ハイ・サイゴン両千里会との交流会を開催しました。

「若手会」は、定期的な勉強会を中心に活動。2016年11月には竣工直後の梅田キャンパスで40歳未満限定「ワインセミナー&テーパーティー」を開催し、約70名が参加。初参加の校友がほとんどで、若手への校友会認知度アップに貢献できたと思います。また、BBQやお花見、ジェットスキー、吹田スタジアムVIPルームでのサッカー観戦など、趣向を凝らしたイベントは若手OB・OGに好評です。

4 コロナ禍で世の中が激変し、人との繋がりが一層重要だと感じます。大企業でも副業が認められるなど、環境変化のなか、独立をめざす方々のサポートや企業の仕事に繋がる人脈作りと自己研鑽の場を提供します。今後、「経営研究部会」設立を予定、先輩と若手との交流機会・クラブの充実を図ります。女性や若手を増やし、伝統を守りつつ拡大し、ワクワク楽しい会作りをめざします。2022年は「大学昇格100年」記念の年、当クラブも校友会組織の一員として、母校発展に努めます。ご入会を心よりお待ちしております。



1 Zoomでの例会、遠方の会員も参加 2 2009年に発足、約60名の会員を有する若手会 3 創立55周年記念、ベトナムでの第220回特別例会(2019年) 4 第219回例会。元経産省官僚で慶大大学院教授・エイバックス株式会社顧問の岸博幸先生の講演にて